

市民革命—ロマン主義の時代

今回の名画

ジェリコー『メデューズ号の筏』 ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』

新しい時代のはじまり

十八世紀末から十九世紀、ヨーロッパでは市民革命が各地で発生し、王侯・貴族の時代から市民の時代へと大きく変わっていきます。この市民社会の発展は芸術の表現様式にも大きな変革をもたらしました。

十七から十八世紀のバロック・古典主義は、王侯・貴族のために作られた芸術の様式でしたが、市民革命を経て保守体制が打破されるとともに衰亡し、これに代わり十九世紀ではロマン主義が新たに起こります。ロマン主義は市民階級のための芸術の様式で、不特定多数の市民に効果的にその表現が伝えられました。

モーツァルトなど古典主義の音楽が貴族の邸宅のサロンで演奏され、少数編成の室内楽団が簡潔で知的な音楽を演奏したのに対して、ロマン主義の音楽は大きな市民ホールで大人数編成の管弦楽団が大音量とともに、激しいリズムや旋律の音楽を演奏しました。

ベートーヴェンの『交響曲第九番「合唱」』が典型的で、不特定多数の人々に伝わりやすく、分かりやすい市民的な音楽として今日の我が国でも親しまれています。



テオドール・ジェリコー『メデューズ号の筏』

1818-18919年 油彩・キャンバス491×716cm ルーブル美術館蔵

18世紀末に起こったフランス革命で、市民権が樹立されましたが、その後、保守反動勢力が巻き返し、1815年王政に逆戻りしました。王政復古の中、無能な船長が復職をし、そのせいでメデューズ号が難破してしまいます。時代錯誤な保守王政とそれに翻弄される人々の姿を象徴的に表現したこの作品により、ロマン主義絵画は幕を開けました。



講義◎宇山卓栄
画家・美術史家



ウジェーヌ・ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』

1830年 油彩・キャンバス259×325cm ルーブル美術館蔵

ドラクロワは王政復古を実現した保守派のタレーラン外務大臣の子供と言われます。タレーランはドラクロワの母を愛人にしていました。実際に、肖像を見ても、ドラクロワとタレーランはそっくりです。ドラクロワはこの作品で、古い体制を打破する民衆のエネルギーを賛美し、新しい時代の幕開けを表現しようとした。

市民のための芸術

古代ローマ時代に、エリート知識層が使っていた文語としてのラテン語と、一般庶民が使っていた口語としてのいわゆるローマ語が併存していました。ローマ帝国の庶民階級は自らの口語体で多くの講談や娯楽小説を作り出し、ローマ語で書かれたそれらはロマンス文学（ローマ語の文学）と呼ばれ、通俗的な恋愛や性愛をテーマにしていました。

ロマンス文学は中世以降も続き、庶民文学全般の意味があるのは、こうしたことに起因します。ロマンス文学は中世以降も続き、庶民文学全般

を指すものとなります。ロマン主義はこのロマンスという言葉に由来し、ロマン主義芸術は言葉の由来そのものが示すように庶民性や大衆性に適応するもので、市民芸術とも言い換えることができます。

それはまさに、十九世紀の市民主義という時代が生み出した産物に他ならないのです。

社会への強い関心

十八世紀のバロック・古典主義絵画はギリシア神話や古代史に題材を求め、歴史画と呼ばれるジャンルを確立させました。それはアカデミックなもので、神話や歴史の知識のない一般市民

・民衆には理解し難いもので、また造形構成や技術においても、絵画的に訓練を受けた者にしか、その価値を理解することができないようなものでした。

このような知識人・貴族のエリート主義的なバロック・古典主義絵画に対し、ロマン主義絵画は一般市民が理解しやすい題材を扱い、当時のニュース・話題・流行といったジャーナリスティックな題材を表現しました。詩人のボードレールはロマン主義絵画を擁護し、「我々の時代もかつての多くの時代に少しも劣らぬほど、豊かな崇高なモチーフを持っていることを証明し

たい」と述べています。

ジェリコーは一八一六年に起きたフランス海軍の座礁事故を題材にした『メデューズ号の筏』で画壇にデビューします。大西洋沖で難破したメデューズ号の生き残りの乗組員が小さな筏で漂流し、画面奥からやって来る船に助けを求めているシーンを描きました。

ウジェーヌ・ドラクロワはジェリコーから多大な影響を受け、ジェリコー同様に当時のニュースに、題材を求めました。代表作『民衆を率いる自由の女神』は、一八三〇年のフランス七月革命を題材にしています。

そのころ日本では

同時代の名画

鎖国をしていた江戸時代、西洋画法に興味を持った画家がいました。その名は司馬江漢。狩野派や浮世絵の絵師から技法を学んだ江漢は、平賀源内や大槻玄沢などの学者との交際から西洋画に興味を持ち、日本初の腐蝕銅版画の作製に成功。そして寛永年間（一七八九〜一八〇二）に、書物などを手がかりに試行錯誤しながら油彩画を制作しました。江漢の作品は、明治以降の洋画家のように根本的に西洋画の様式を習得したわけではなく、西洋風を取り入れた絵画という意味で、「洋風画」と呼ばれています。



司馬江漢 寒柳水禽図 19世紀前半 絹本油彩
パワー・スコレクション蔵